

2012年度 京都青年会議所 総評

この事業評価は、2012年9月12日に行った事業検証評価会における、8名の評価委員から出された意見、および各事業評価シートをもとに構想日本が取りまとめたものである。

今回、評価の対象となった8つの事業は、5つの継続事業と4つの新規事業に分けられるが、それぞれについて大ぐくりの評価として、以下のことが言えよう。

第一に、京都JCの継続事業として既に内容が確立している事業については全体として以下のことが言えよう。

「公開討論会」、「京都JC文化少年団」、「第9回京都学生人間力大賞」、「第26回わんぱく相撲京都大会」、「対外広報活動」は、継続して実績を上げているという点で評価できる。例えば、「第9回京都学生人間力大賞」は、昨年度の反省点を踏まえて会場の選定や情報発信の仕方を改善し、結果として前年度よりも高い評価を得ている。一方、どの事業にも言えることだが、内容が確立しているが故に、前年までのやり方を必ずしも十分省みることなく踏襲してはいないだろうか。これからもマンネリ化せぬように、絶えず参加者の声を聞き、外部の団体と連携を取るなど、前年度の反省を踏まえた改善を続けていただきたい。

「対外広報活動」では、目まぐるしく変化する情報伝達手段の取捨選択を試みるなど、より高い効果を得るための工夫が求められている。

第二に、タイムリーなテーマ性を持たせた新規事業についてである。「絆を深める事業」、「絆を深める事業に繋がる担当例会」、「震災復興に繋がる担当例会」は、コミュニティーの繋がりがテーマとなっているが、これらの事業の成功を左右するのはコンセプトの明確さであると考えられる。例えば、「震災復興に繋がる担当例会」は、子供たちの心に大きな影響を与えた被災地支援事業として高い評価を得た。一過性のイベントとならず、地域社会から評価されるものとしていくためには、適切な目標と成果指標を定め、他団体との協力を進めていくことなどが重要だと考えられる。

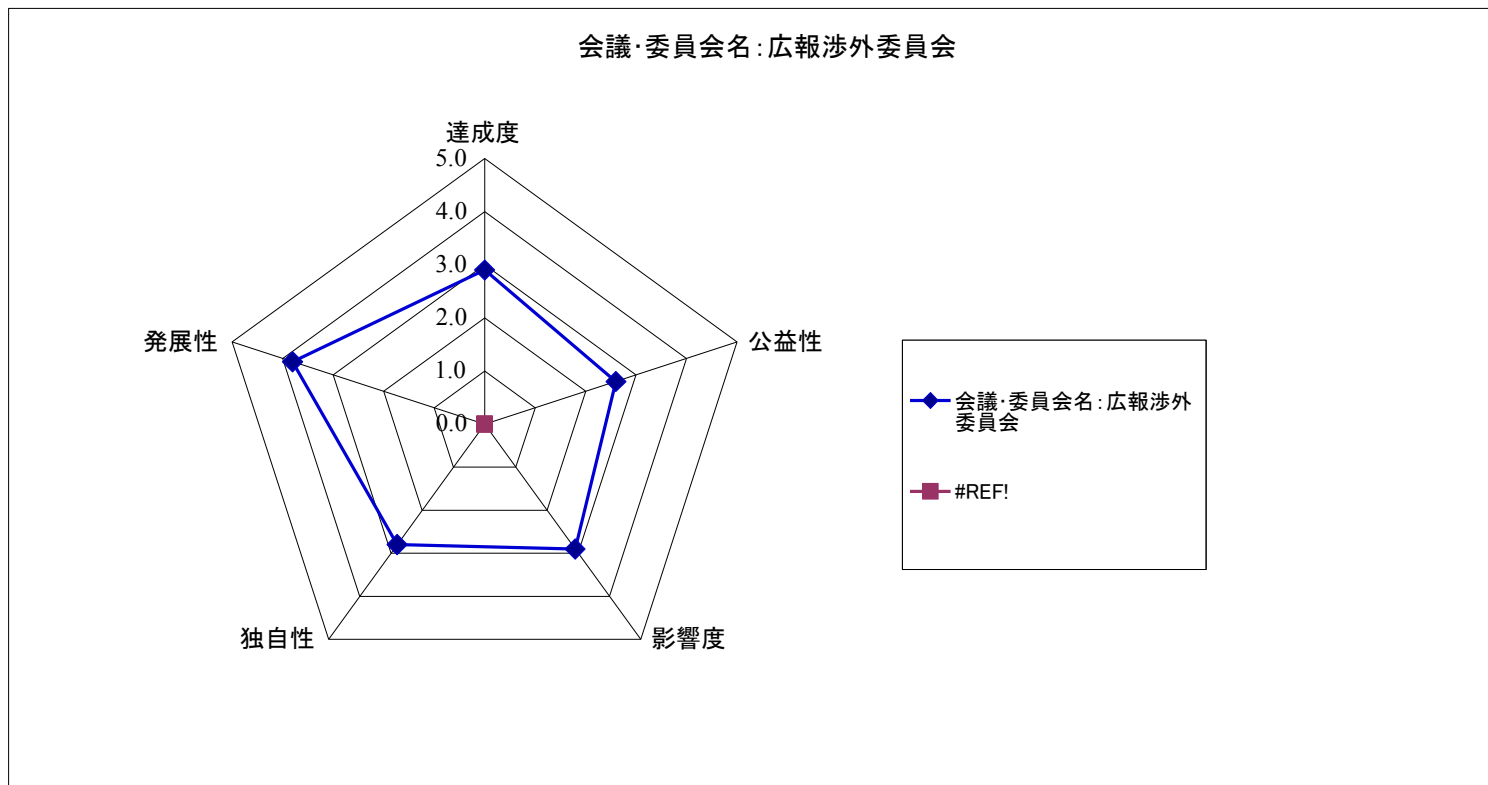
京都JCは全国のJCに先駆けて「事業評価」を継続し、毎年の事業を外部の目を入れてチェックし、事業の改善と自らの存在意義を高める努力を傾けていること自体が高く評価される活動である。今後とも「京都JCはこういう“信念”を持っていて、こういう“強み”がある組織なので、こういう“事業”を行います」という地域社会への発信を、一人ひとりが明確に意識し、仲間との議論を深めつつより強固なものとしていただきたい。

構想日本代表 加藤 秀樹

会議・委員会名：広報渉外委員会

事業計画：ホームページ作成・運営並びにWebサイト(パスワードエリア)運営及びメールマガジンの配信

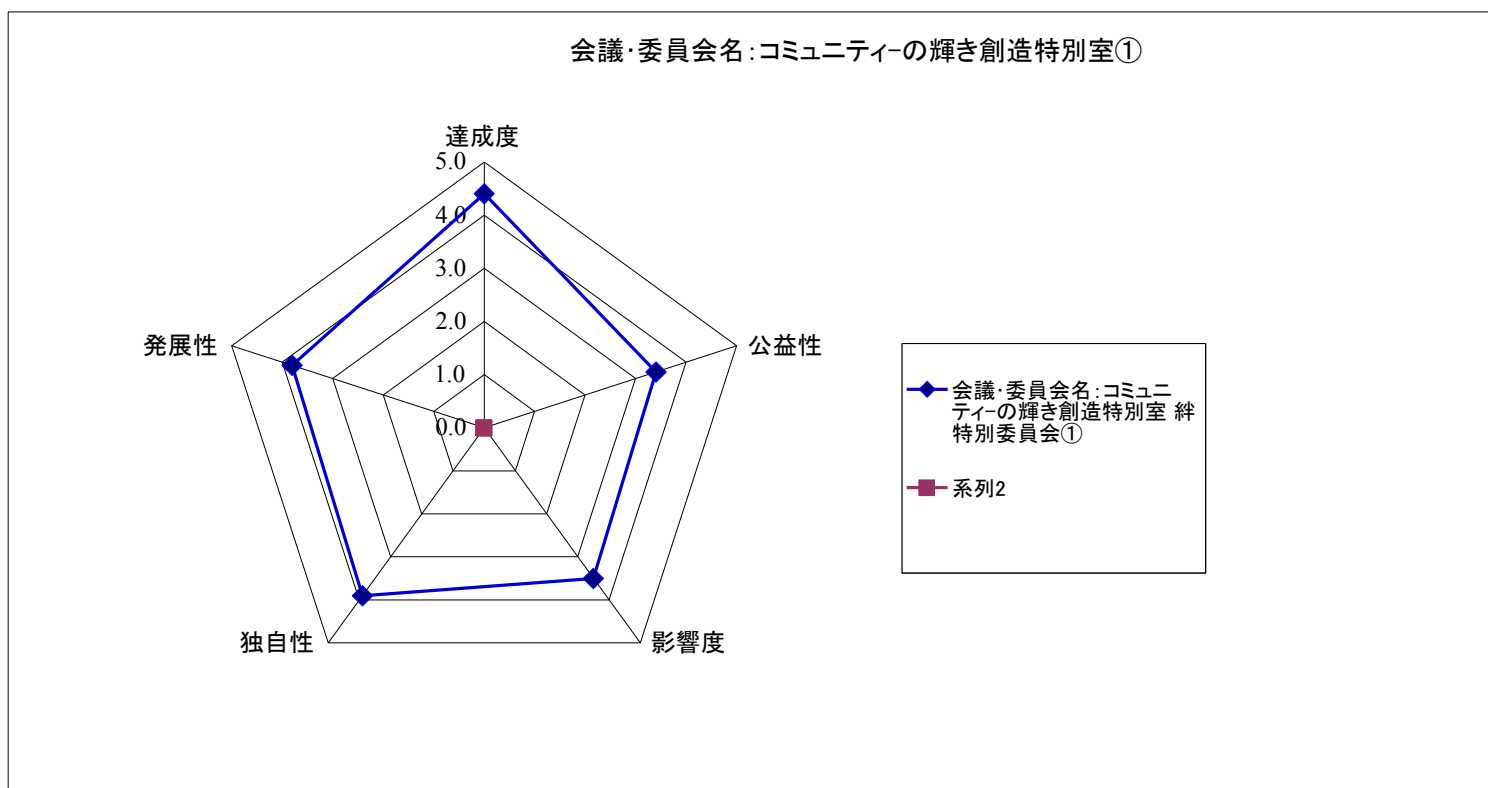
事業名	事業の内容	評価点					根拠	改善提案
		達成度	公益性	影響度	独自性	発展性		
対外広報活動	<p>人々の絆が徐々に薄れつつある社会状況に直面しているいま、私たちが所属するコミュニティー内での絆を再構築するとともに、より多くの市民に情報を発信し参加と共感に繋げ、青年会議所運動をさらに拡大していく必要があると考え、本事業を計画するにいたしました。</p> <p>①ホームページデザインの刷新 ②Facebookの新規運用 ③2012年度、企画の運用</p>	2.9	2.6	2.9	2.8	3.8	SNSなど、HPへの誘導に努力している点は評価できるが、今はまだ実態として内部向けになっており、一般の訪問者の役に立つ情報が少ない。HPは今や団体の顔なので、今後の工夫に期待。	他団体とのリンク、外部の有識者による投稿の配信、多くの方が参加するような他事業との連携など、より「開かれたHP」を目指すことで発展する余地は大きい。
平均		2.9	2.6	2.9	2.8	3.8		



会議・委員会名:コミュニティの輝き創造特別室 絆特別委員会①

事業計画:京都市長選挙 マニフェスト志向型公開討論会

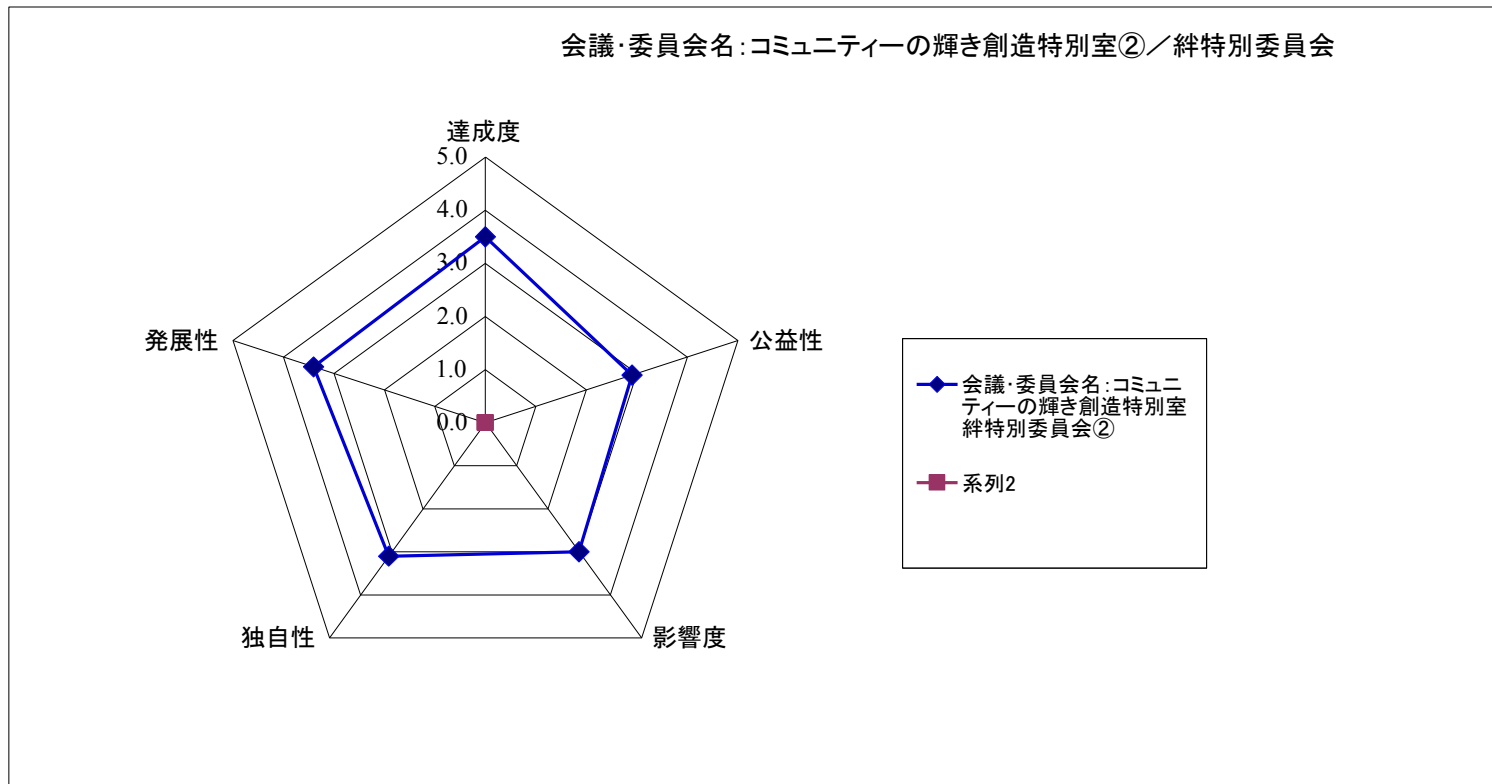
事業名	事業の内容	評価点					根拠	改善提案
		達成度	公益性	影響度	独自性	発展性		
公開討論会	私たち社団法人京都青年会議所は2006年府知事選挙をはじめ過去6回に渡り公開討論会を実施してまいりました。本年度は京都市長選挙が実施されることから、市民一人ひとりが京都のまちを輝かせるため、また、まちの未来創造に積極的な役割を担っていただくために私たちと市民がともに京都の未来を考えるため、市長選挙公開討論会を開催いたしました。	4.4	3.4	3.5	3.9	3.8	他に主催する団体がない以上、JCが行う意味があるので、地道に継続している点は評価できる。若者の政治参画が低い中、どのように巻き込んでいくかが課題。	公開討論会自体は目新しい事業ではないので、差別化のためにも新しい試みが必要か。公開討論会は公共政策を学ぶ学生と連携したり、コーディネーターや実施会場を工夫したりして、若者や女性を巻き込むような工夫があると良い。また、討論会の事前、事後の発信により力を入れることで発展につながる。
平均		4.4	3.4	3.5	3.9	3.8		



会議・委員会名：コミュニティーの輝き創造特別室 絆特別委員会②

事業計画：絆を深める事業

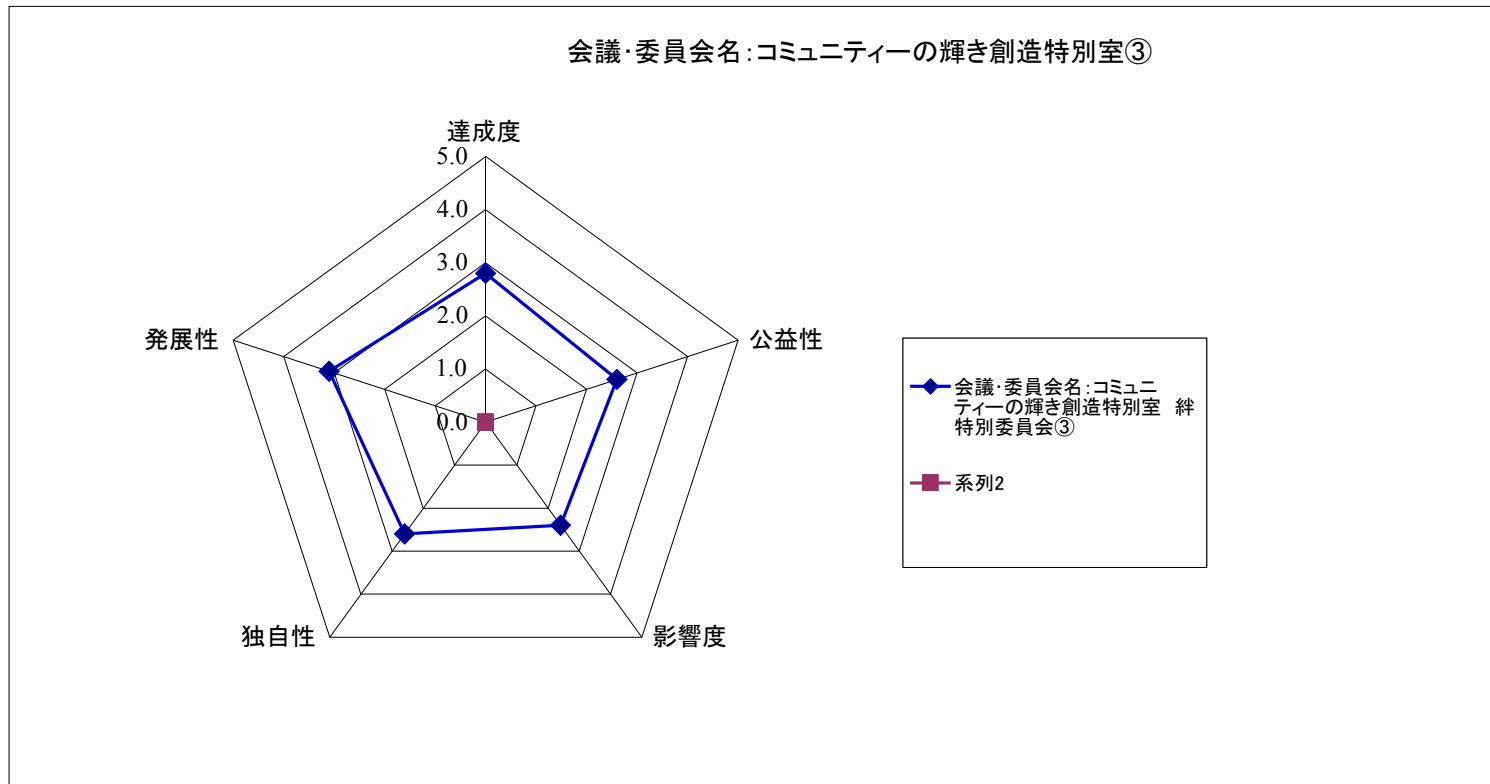
事業名	事業の内容	評価点					根拠	改善提案
		達成度	公益	影響度	独自性	発展性		
絆を深める事業	近年、家族や地域のコミュニティーの崩壊により個人が孤立する暗く寂しい無縁社会を、優しさや思いやりがあふれ、ひとの温もりを互いに感じることができる社会へと変革していくためには、まずは、もっとも身近なコミュニティーである、家族の絆こそが、地域のコミュニティーにおけるより強い絆の形成に繋がると考え、「絆Jamboree2012」と題して、行政・企業などと連携して家族の絆の強化を目的とした市民参加型の事業を開催いたします。	3.5	2.9	3.0	3.1	3.4	家族の絆が地域の絆に繋がるといいう明確なコンセプトを持って展開した点、参加者数の多さや満足の高さについては評価できる。一方で、成果指標が曖昧なので目標達成度をどう考えれば良いのかわかりにくい。また、一過性のイベントのように見え、継続性には疑問がある。	地域活動を行なっているNPOとの協働、年に複数回の開催、将来的な他団体への移管、食券付きの参加券の販売などを検討してはどうか。また、広報の仕方としては、多くの人に何度も来てもらえるような工夫が必要。HPをもっと見やすく。
平均		3.5	2.9	3.0	3.1	3.4		



会議・委員会名: コミュニティーの輝き創造特別室 絆特別委員会③

事業計画: 4月例会(絆特別委員会企画担当例会)

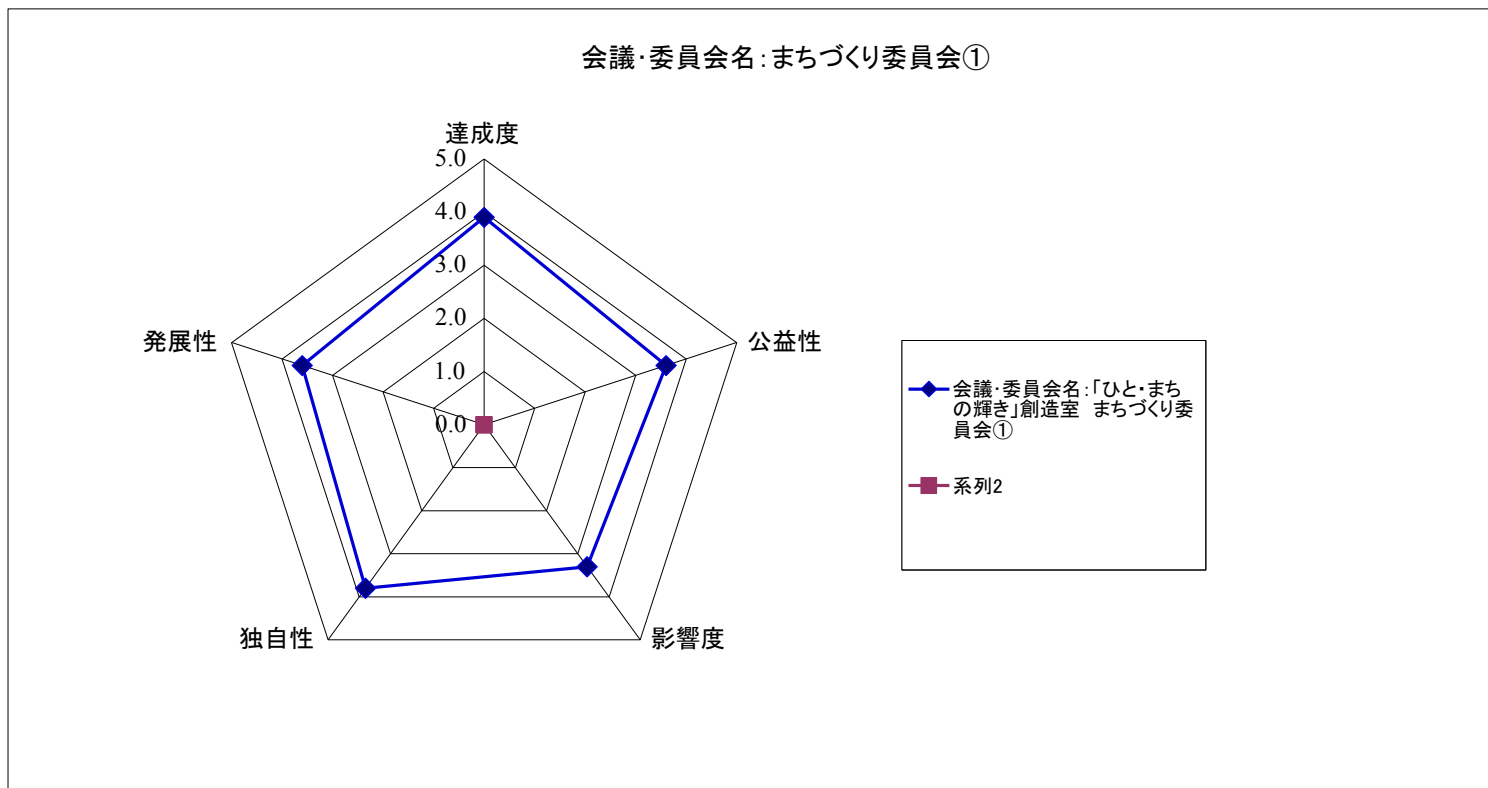
事業名	事業の内容	評価点					根拠	改善提案
		達成度	公益性	影響度	独自性	発展性		
絆を深める事業に繋がる例会(4月例会)	年間月例会運営方針に基づき、事業を実施しました。4月例会テーマを『「コミュニティーの輝き」～心に「絆」を書く～ 家族の絆がもたらすコミュニティーの輝き』とさせていただきます。講師として音羽山清水寺 神主の森 清範氏にご講演いただきました。	2.8	2.6	2.4	2.6	3.1	オープン例会の試みは良いが、とにかく外部からの一般参加者が少すぎる。メンバー向けなのか、一般向けなのか、両者の交流を目指しているのか、対象を明確化すべき。講演の内容が悪いわけではないが、会自体にメッセージ性を持たせるなど、差別化が必要。	一般の人が参加しやすくなるような工夫が不可欠。たとえ「例会」であっても、一般の方を迎え入れるのならメンバー全員がスタッフとしての意識を持つことが必要。例会の中での講演会だと一般の人はなかなか参加しにくいので、切り離すか、広報の仕方を工夫すると良い。
平均		2.8	2.6	2.4	2.6	3.1		



会議・委員会名:「ひと・まちの輝き」創造室 まちづくり委員会①

事業計画: 京都JC文化少年団の実施

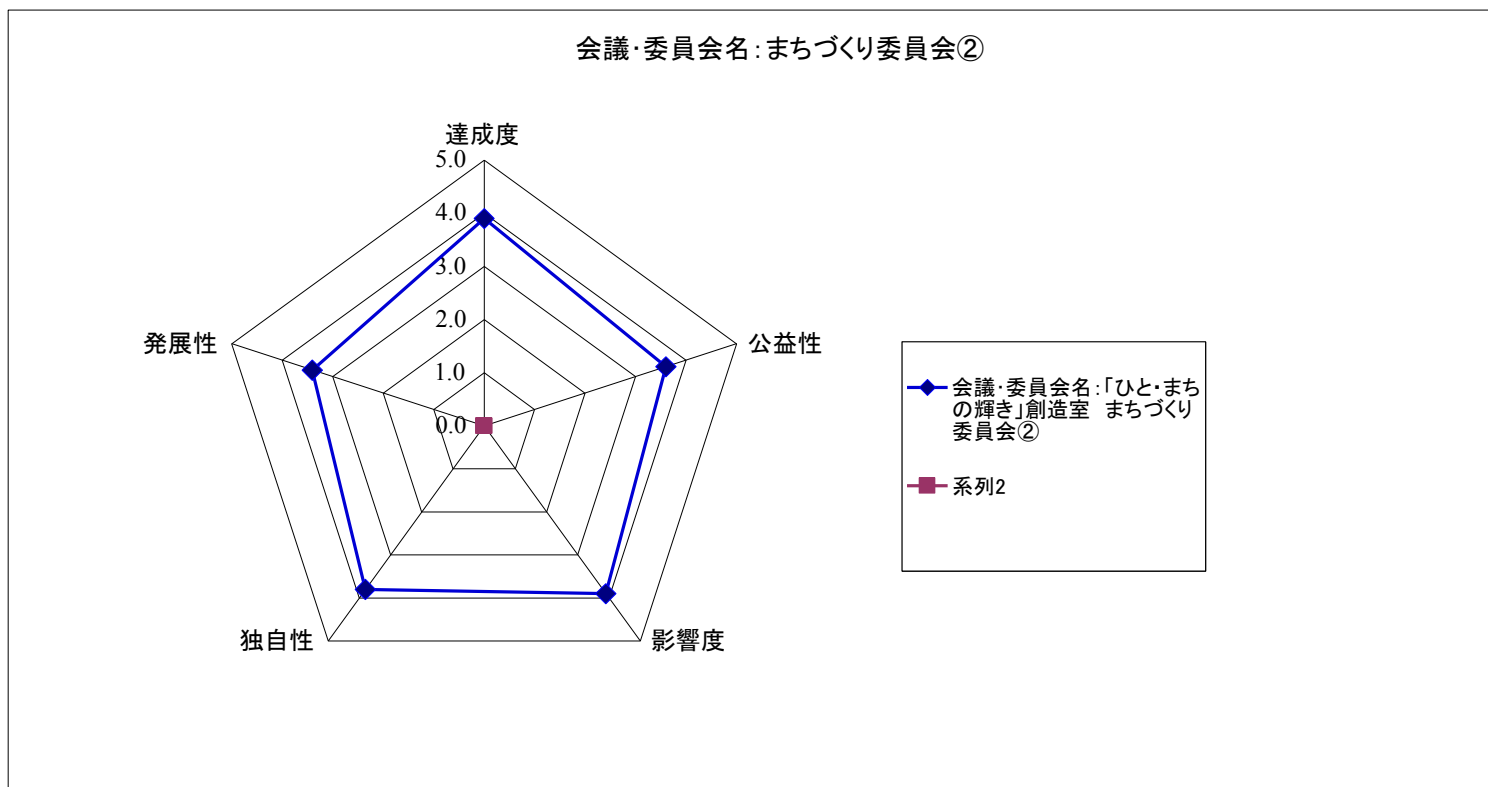
事業名	事業の内容	評価点					根拠	改善提案
		達成度	公益性	影響度	独自	発展性		
京都JC文化少年団	京都市内在住もしくは京都市内小学校に通う小学生を対象に団員を募集し、子ども文化教室を開催しています(本年度団員は132名)。本年度は、「命のみなもとく水の恵み」を通して、京都のほんまもん体験をしてみよう」をテーマとして、京都に脈々と受け継がれてきた歴史・文化・伝統・芸術など素晴らしい社会資本について、年5回のプログラムを通して学んでいただいております。	3.9	3.6	3.3	3.8	3.6	子どもの成長を育む取り組みである点、また、京都でしか体験できないプログラムになっている点は評価できる。新規の参加者を増やしていくこと、単なる楽しい体験学習で終わらせないための差別化、事業目的との整合性を再確認することが必要。	世代を超えた交流が生まれる工夫、あるいは子どもたちによる企画など子ども同士の学び合いが生まれる工夫をしたらどうか。また、他団体との協力の可能性や、参加前後の子どもの変化の把握など、幅広く検討する余地がある。
平均		3.9	3.6	3.3	3.8	3.6		



会議・委員会名:「ひと・まちの輝き」創造室 まちづくり委員会②

事業計画:3月例会(まちづくり委員会企画担当例会)

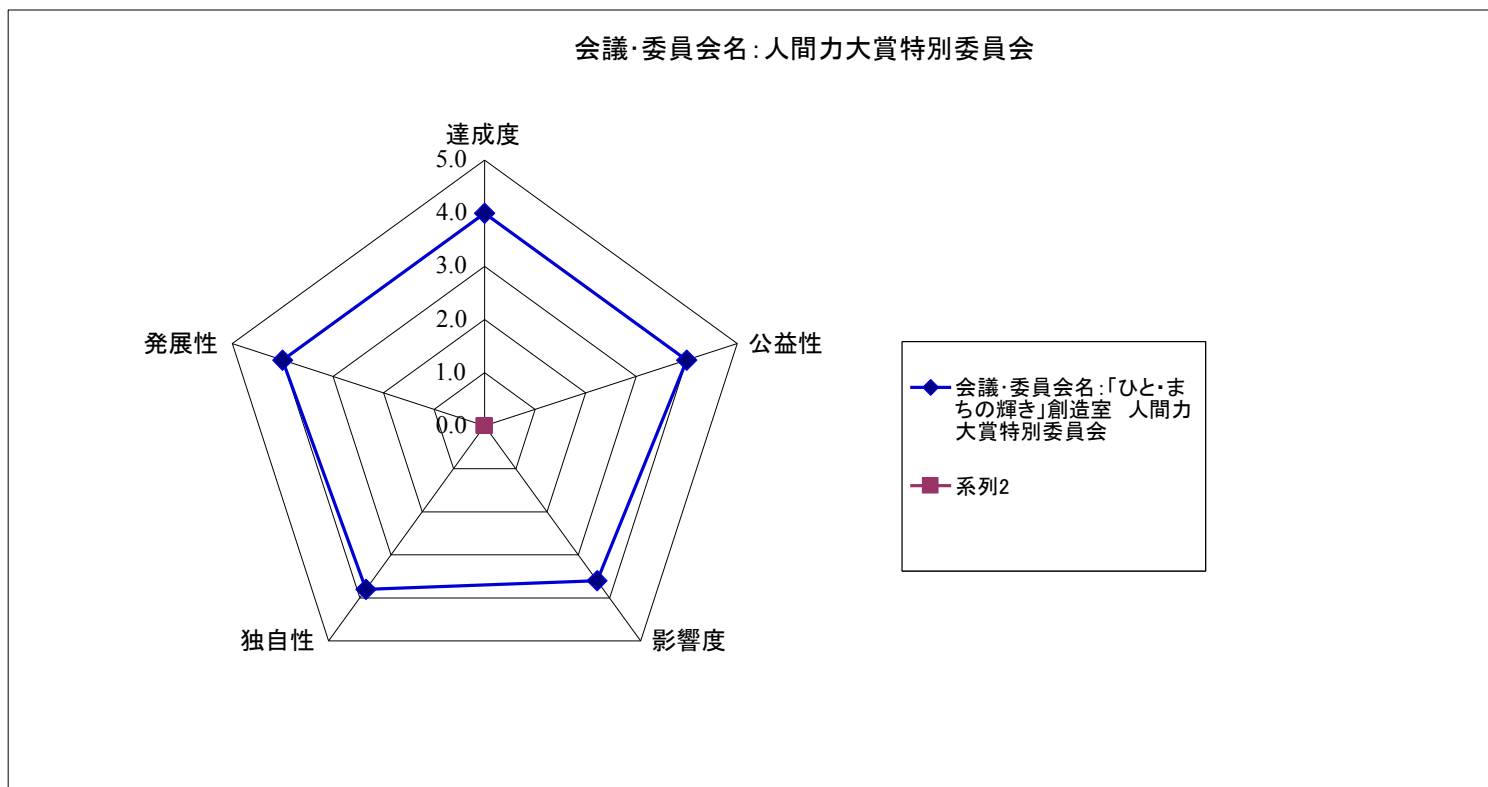
事業名	事業の内容	評価点					根拠	改善提案
		達成度	公益性	影響度	独自性	発展性		
震災復興に繋がる例会 (3月例会)	東日本大震災の復興支援事業「届けようこころの絆、みんなの笑顔で日本を元気に」をテーマに京都市・京都市教育委員会共催でオープン例会を開催しました。	3.9	3.6	3.9	3.8	3.4	被災地支援事業だとすればテーマは評価できるが、例会として継続していくかは再検討の余地がある。同様の取り組みが無数にある中でなぜJCがやるのかを明確にして、差別化を図るべき。	継続事業としていくのであれば、復興の進捗のフェーズに合わせて内容を変えつつ、全体の目的の筋を通していくと良い。また、引き続き石巻JCとの協力を通じてフォローアップができるとうい。あるいは、京都に避難されている方々にJCとして継続的な支援ができないか。
平均		3.9	3.6	3.9	3.8	3.4		



会議・委員会名:「ひと・まちの輝き」創造室 人間力大賞特別委員会

事業計画: 第9回京都学生人間力大賞

事業名	事業の内容	評価点					根拠	改善提案
		達成度	公益性	影響度	独自性	発展性		
第9回京都学生人間力大賞	「第9回京都学生人間力大賞」を実施することで、京都で学び、積極果敢に社会貢献活動に挑戦している人間力あふれる学生に対し、功績を称え今後も京都のまちを愛する心と誇りを持って活動していただけるようにすること、行政・各種団体との関係を深め広く発信し、本事業のブランドの向上に繋がるとともに、市民やこれから学生になる世代にも活動に対する気概を感じていただくことで、活力ある人が集うまちの創造に繋げることを目指しております。	4.0	4.0	3.6	3.8	4.0	取り組みを広く発信するために、対象者を拡大したり、屋外会場で開催するなど、改善が見られる点は評価できる。一方、学生は「卒業すれば終わり」なので、活動の趣旨や内容が継続されるような工夫が不可欠。	若者を育て、つなげるが必要なので、他団体との連携や継続的なフォローアップが重要。
平均		4.0	4.0	3.6	3.8	4.0		



会議・委員会名：「ひと・まちの輝き」創造室／ひとづくり委員会

事業計画：第26回わんぱく相撲京都大会

事業名	事業の内容	評価点					根拠	改善提案
		達成	公益性	影響度	独自性	発展性		
第26回わんぱく相撲京都大会	本年度のわんぱく相撲京都大会は、月例会として開催することで、メンバーが個を高めて絆を深め真摯に事業に取り組む、長い歴史と伝統を持った日本の国技である「相撲」を通して、子どもたちに礼節を重んじる心と、相手に対する思いやりや感謝の心を育み、勝つことの喜びや負けることの悔しさを体験し、夢や目標に向かってあきらめない行動を続ける大切さを実感していただくことを目的とする。	3.9	3.1	4.1	3.9	3.6	子どもたちに貴重な機会を提供しており、確立したイベントとして評価できるが、マンネリ化しない工夫が常に必要。また、ここまで確立したイベントをJCの継続事業としてやっていく必要があるのか、という疑問もある。	アンケートなどで参加者の声を集めること。また、学校や他団体と、企画の段階から連携していくことで、新しい工夫やアイデアが出されるのではないか。
平均		3.9	3.1	4.1	3.9	3.6		

